

## 2025年フクシマ連帯キャラバン報告書

全港湾 東北地方ひたち支部青年女性部

副部長 大亀 慶太

3/12～15の4日間フクシマ連帯キャラバンに参加しました。全日程通しで参加するのは初めてでした。フィールドワークで福島を訪れるのは今回も入れて4回目になります。

初めてフィールドワークで福島を訪れたのは4年前で帰宅困難区域が解除され始めた頃でした。震災、原発事故から10年経っているのにも関わらず、震災で倒れた家屋や津波の爪痕が当時のままの状態に残っている現状に衝撃を受けました。原発事故の恐ろしさを目で見て、肌で感じた当時の気持ちを今でも忘れる事が出来ません。私の人生の転機でもあり、原発事故の恐ろしさを後世に伝えていかなければならないと思った日でした。

今回のキャラバンではフィールドワーク、東日本大震災・原子力災害伝承館の見学、震災遺構 浪江町立請戸小学校の見学、東京電力廃炉資料館の見学、津島原発訴訟原告団の方の家屋の見学、津島原発訴訟原告団の方との意見交換会、福島駅での署名活動、街頭演説などを行なって来ました。

また移動中の車内では福島の実況について説明する講師を務めさせて頂きました。過去のフィールドワークで学んだ事や私の福島に対する思いを仲間達に伝え、議論する事が出来ました。最終日に行った街頭演説では4日間で学んだ事、感じた思いをマイクで福島の皆さんに伝えさせて頂きました。

4日間福島の現状について学び改めて思ったことは、原発事故から14年経った今でもふるさとに帰る事が出来ない事実があり、それは他人事ではなく、原発がある限り自分達の身に降りかかる可能性が有ることを思い知りました。また福島では事実として子供の甲状腺が増えています。しかし、国との裁判の中では、医学的な証明が出来ず満額の保証が受けられないという状況にあります。福島の問題も解決されないまま、原子力推進政策に舵を切った政府に疑問しかありません。原発事故で漏れ出した放射線の人体の影響への恐怖は計り知れないものだと思います、改めて【核と人類は共存出来ない】と思いました。

フクシマ連帯キャラバンで全国の仲間達と福島の事、仕事の事、組合の事、家族の事などさまざまの事を4日間話し合い、時には議論する事もありました。この経験は一生忘れる事が出来ないものです。全国の仲間達との団結も深まり、別れが寂しく思いました。2025年フクシマ連帯キャラバンの仲間達とまた会える日を楽しみにして、これからの組合活動、脱原発運動を頑張っていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

また会おう